







**3月 4月 5月**  
桜の見所  
岩崎弁財天・峯八雲神社側  
みつこ桜・狭山自然公園

○密蔵院  
花祭り  
(昔の子どもの楽しみ)

○中氷川神社 春例大祭

**6月 7月 8月**  
森林浴スポット  
椿峰由来記〜千門大明神  
堀口天満天神社周辺  
トトロの森1号地  
みつこ桜〜菩提樹池

**夏祭り&盆踊り**  
瑞岩寺・峯八雲神社  
美園上八雲神社・中氷川神社  
千門大明神・堀口天満天神社  
大鐘公民館 他多数

○西武球場前駅周辺  
ところざわゆり園  
(50種約45万株のゆり)

**12月 1月 2月**  
冬景色の見所  
狭山湖周辺

○中氷川神社  
子ども焼いも大会  
(焼いも作り、ゲーム、歌)

○西武球場前駅周辺  
所沢シティマラソン大会

**9月 10月 11月**  
みのりの秋

○菩提樹田んぼ(菩提樹田んぼの会)  
稲刈り  
(誰でも会員になれます。)

○中氷川神社 秋大祭  
○瑞岩寺 岩崎彫獅子舞  
(伝承400余年)

○山口まちづくりセンター  
山口地区文化祭  
(舞台発表・参加型イベント・模擬店多数)

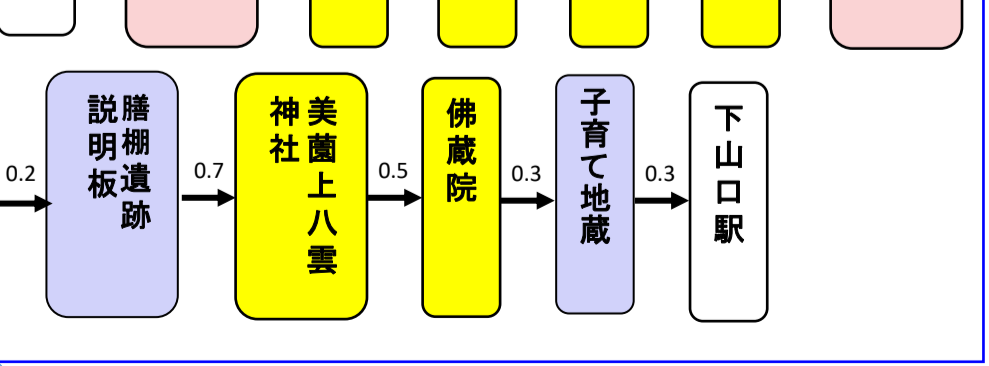
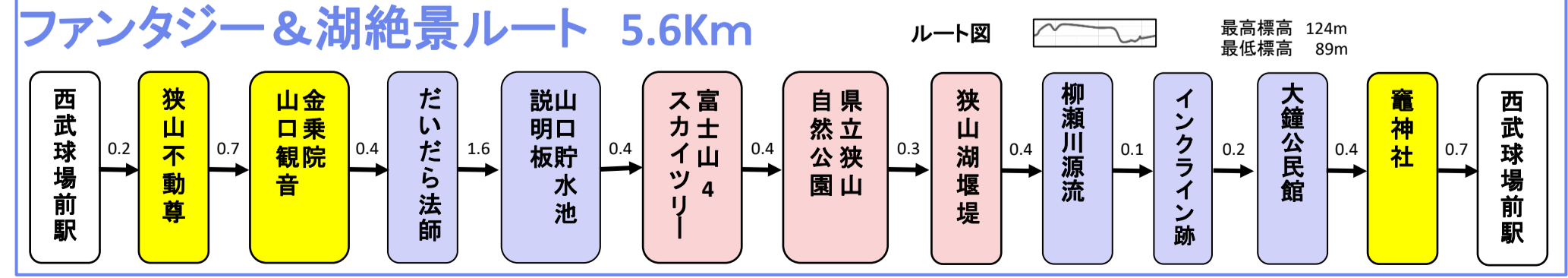
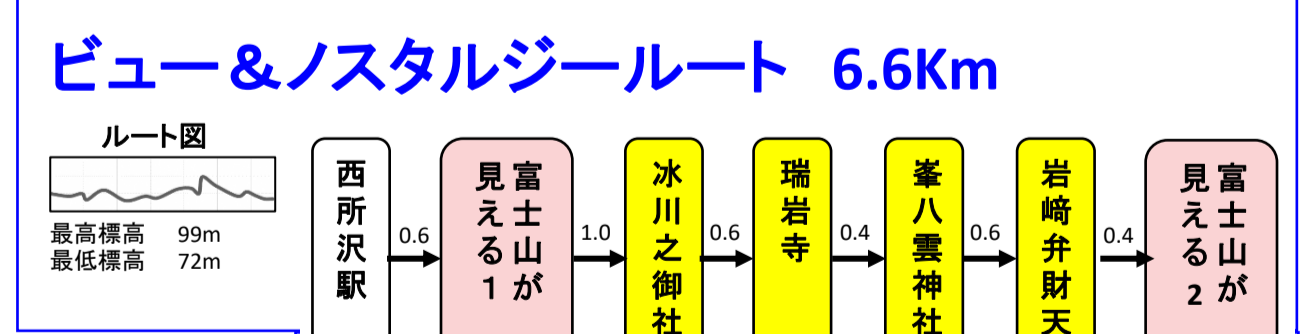
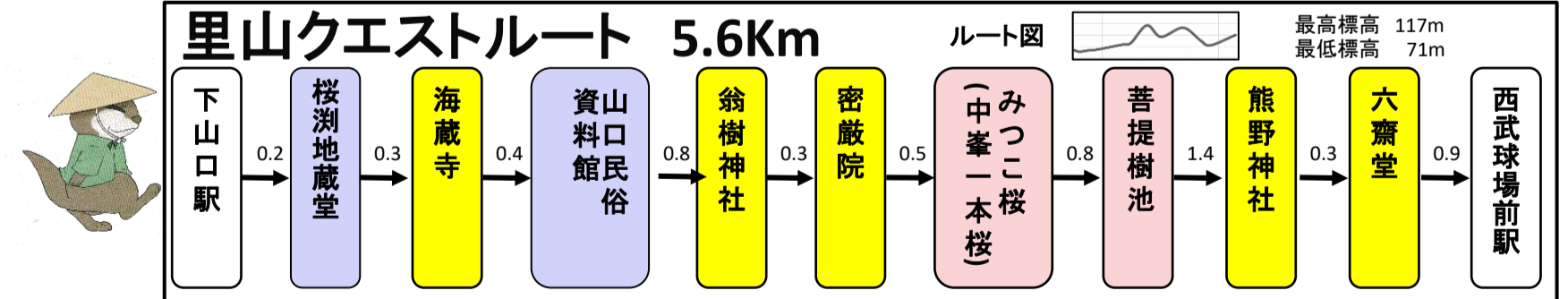
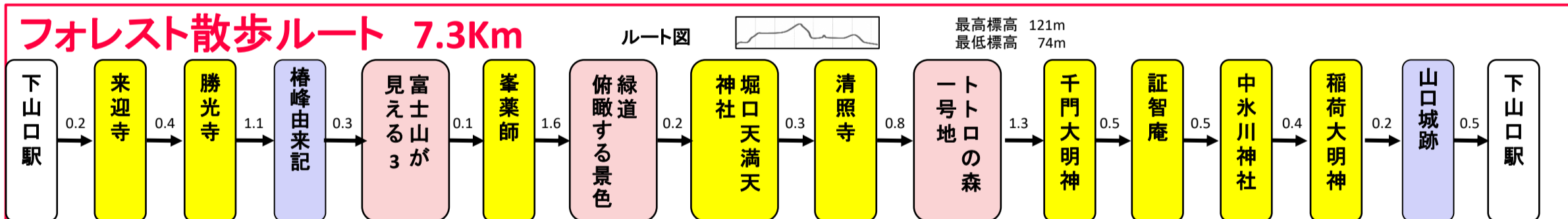
○柳瀬川秋の大規模清掃  
(参加者150人以上)

○ふれあいスポーツ大会



山口地区に言い伝えられる地名のいわれ

山口 「山の口」の意  
岩崎 狭山丘陵の端「岬」の意  
菩提樹 「菩提樹の大本」の意  
碓之内 「山口城の外堀の内側」の意  
打越 「小手指方面から狭山丘陵を越えて行く場所」の意  
氷川 「中氷川神社所在地」の意  
町谷 「山口城下の町屋」の意  
川辺 「柳瀬川に沿って家屋が並ぶ」の意  
堀口 「狭山湖ができる前、二流れが1本に合流し柳瀬川になる場所」の意  
大鐘 「塚から大きな鐘が出た」の意  
山内 「山口観音があること」の意  
新碓 「太田道灌の家臣新碓玄蕃が住んでいた」の意



勝楽寺について  
「柳瀬のかわうそ」と「勝楽寺」

<柳瀬のかわうそ>  
古文書「山口詣(やまくちもうで)」とは、嘉永2年(1849)江戸末期、作者不詳ペンネーム「柳瀬のかわうそ」により書き残された見聞録です。江戸の頃、郡からほど近い「山口の里」は春ともなれば花が咲き乱れ、神社仏閣が点在する名所であったようです。古文書には今も残る山口の地名や見所がたくさん出てきます。椿峰、峯業師から見た山口の情景「のどかさや 万戸の煙 空に飛ぶ」や「道問えば あちら向きたる 茶摘みかな」など、竹づつに好みの飲み物をととのえ山口周辺を江戸末期に歩いた作者「柳瀬のかわうそ」はどんな人だったのでしょうか。

<湖底のふるさと>  
1300年の歴史を秘めた勝楽寺は狭山丘陵の自然と調和静かに迎えてくれます。勝楽寺の草創は、寛永2年(716)現在は狭山湖(山口貯水池)の湖底に沈んだ勝楽寺村に朝鮮半島から渡来した王辰爾(お引ん)一族の人々により阿弥陀如来・歓喜天をまつり勝楽寺聖天院を建立した時に始まり、天喜・治暦(1053~1069)の世には武蔵野一の霊場となり治承・寿永(1177~1183)の時代には鎌倉将軍の祈願所となり七社神社列当にあたり十二院十二坊を敷え、寺社ともに繁栄しました。しかし、文永3年(1266)鎌倉騒動がおこり戦乱の世が近づき、たび重なる悲運にまわれましたが、江戸時代文政2年(1819)には再建されました。当時の伽藍は裏山に七社神社、境内に阿弥陀堂・薬師堂・地蔵堂、そして大坊の池に日限地蔵・歓喜天・弁財天がまつられ往古のなごりをとどめていましたが、明治維新により寺社は分離され七社神社は山口中氷川神社に合祀されました。そして大正・昭和の時代に至っては東京の水源地・山口貯水池(狭山湖)築造のために、寺院は昭和4年(1929)に勝楽寺村を離れ現在地、山口1119番地に伽藍を移築(佛蔵院として)今日に至ります。

